

Malignant～

炎症性皮膚疾患の病名に、“malignant”という形容詞が使われることがある。1例をあげると、malignant RA(悪性関節リウマチ)という言葉がある。筆者は昔から関節リウマチ(RA)の皮膚症状をみる機会が多かったため、そういう病名をつけられていた患者さんをしばしば目にした。血管炎の要素が強いRAをこう呼ぼうと提唱されたのだと思う。そのクライテリアの中にリウマチ結節と皮膚潰瘍(rheumatoid vasculitis)が含まれていた。リウマチ結節は血管炎ではないので、なぜ含まれていたかわからないが、要するに活動性の高いRAという意味だと解釈していた。同時に、わざわざこういう名前と呼ばなくても、と思わなくもなかった。本邦ではまだこういう病名が使われることがあるかもしれないが、海外ではおそらく使われなくなってきたのではと思う。ついでにいうと、下腿潰瘍があると、それが血管炎なのか壊疽性膿皮症なのか、あるいは循環障害によるものか、しっかり検討されないままmalignant RAの皮膚症状と診断されるケースも少なからずあるだろうと思われる。

皮膚科領域でも、臨床症状が激しいときや治療抵抗性のものに“malignant”が使われる病名もあった。古くはmalignant alopeciaやmalignant pyodermaが思い浮かぶ。後者は、深い壊死性潰瘍を呈する難治なものといったニュアンスが込められていると推測されるが、これも通常のpyoderma gangrenosumと変わらないので、いまでは使われなくなった(と思う)。malignant lues(syphilis)はいまでもしばしば使われているようである。

また、黒色表皮腫は内臓悪性腫瘍のデルマドローム以外にも肥満や内分泌異常でもみられるため、悪性腫瘍に伴うものをmalignant acanthosis nigricansという名で呼んでほかのタイプと区別する向きがあるが、これも黒色表皮腫といえば悪性腫瘍に伴うものがメインなので、わざわざそう呼ばなくてもよいのと思う。しかも考えてみれば、ほかにも悪性腫瘍のデルマドロームはたくさんあるわけで、malignant atrophic papulosis(Degos)、皮膚筋炎にみられるmalignant erythemaなど、ほかにも呼ぼうと思えばそういういい方ができる疾患はあるだろうが、すべてがそういういわれ方をしてしまうのには違和感を覚える。

悪性腫瘍に伴う炎症性の病態にはmalignantの代わりにparaneoplasticという形容詞が使われることが多くなってきた。患者さんに説明する際に、悪性～という言葉を使われると、説明される側はびっくりするのではと思う。実際に、前医で悪性脱毛症という病名で説明を受けた患者さんが大学病院を受診したことがあったが、説明時にそんな用語を使う必要があるのかと疑問に思ったことがあった。

なお、少し話はそれるが、以前、Crohn病の特異疹をmetastatic Crohn's diseaseと呼んだ時期もあったが、これも、転移によって皮膚病変が出るわけではないので最近cutaneous Crohn's diseaseといういい方が主体になってきた。“malignant”や“metastatic”はインパクトがある言葉なので使われてきたのだろうが、それだけではよい病名とはいえないことの表れだと思う。

山 本 俊 幸